

授 業 科目名	【Gカリキュラム】 法学入門 【EFカリキュラム】 法学入門	必修	開講年次	【G】1 【EF】1	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（中社・-・公民・-）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（中社・-・公民・-）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（中社必修・-・公民必修・-）科目 【EF】教員の免許状取得のための（中社選択・-・公民選択・-）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	法学の基礎を学ぶ	担当者	青木 隆・柳澤 眞実子・小野上 真也			
授業概要	<p>【概要】 この授業は、これから法学部生として学んでいくために必要な基礎的知識を身につけ、法学に興味を引き出すための講義です。皆さんにとって身近な話題も素材としながら講義を進めていきます。また、法的なものの考え方に関する事柄の基礎にも触れる講義です。</p> <p>【到達目標】 ①法学に興味を持つこと、②学習に必要な基礎的知識を身に付けること、③授業の内容を短い時間でまとめてノートに筆記し、自らの知識として身につくようにすること、④復習することによって知識を定着させる習慣をつけること、を最低限の目標として掲げます。</p>					
履修条件	特になし。ただし、新生は学期始めのガイダンス時に指定されたクラスで受講して下さい。 再履修の場合、受講人数の関係上、受講できない場合があります。					
教科書・ 参考書	<p>【教科書】 ポケット六法〔平成31年（2019年）版〕（有斐閣）2,052円</p> <p>【参考書】 必要に応じて授業中に指示、紹介します。他の必修の法学科目（憲法概論、民法概論など）の教科書を繰り返し読むことも大切です。</p>					
授業回数	授業内容					
1	開講にあたって：受講と学修の方法、教室のルール					
	予習：シラバス（本ページ）の熟読		復習：講義内容のノートの整理と確認			
2	法律学の特徴：六法の解説、法学における文、文章					
	予習：法律学の特徴、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：法律学の特徴、についてノートの整理と確認			
3	法の分類：公法と私法、実定法と手続法					
	予習：法の分類、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：法の分類、についてノートの整理と確認			
4	法とは何か：規範、法の概念、法の理念					
	予習：法とは何か、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：法とは何か、についてノートの整理と確認			
5	法と道徳：法と正義					
	予習：法と道徳、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：法と道徳、についてノートの整理と確認			
6	法の歴史：法制史、法の発展					
	予習：法の歴史、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：法の歴史、についてノートの整理と確認			
7	法の存在形式：法体系、成文法、判例法					
	予習：法の存在形式、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：法の存在形式、についてノートの整理と確認			
8	中間まとめ・到達度確認					
	予習：第2回から第7回までのノート等を復習する。		復習：到達度確認で不明であった部分について復習する。			
9	法的責任：故意・過失、権利の侵害、法益の侵害					
	予習：法的責任、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：法的責任、についてノートの整理と確認			
10	司法の役割：法の作用					
	予習：司法の役割、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：司法の役割、についてノートの整理と確認			
11	民事事件、刑事事件、行政事件：裁判所とは					
	予習：裁判所、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：民事事件、刑事事件、行政事件、についてノートの整理と確認			
12	判例の読み方					
	予習：判例読み方、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：判例の読み方、についてノートの整理と確認			
13	法の解釈：方法と技術					
	予習：法の解釈、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：法の解釈、についてノートの整理と確認			
14	法の適用：ケーススタディ					
	予習：法の適用、に関する項目を図書館等で調べる。		復習：法の適用、についてノートの整理と確認			
15	総まとめ・到達度確認					
	予習：第2回から第14回までのノート等を復習する。		復習：到達度確認で不明であった点について復習する。			
評価方法	第8回及び第15回に行う到達度確認筆記試験100%。15回目の到達度確認筆記試験を基本とし、8回目の中間まとめ・到達度確認を加味します。 授業回数の1/3以上欠席した場合、評価することはできません。 ただし、担当教員により評価方法が異なる場合もあります。初回授業で確認をしてください。					
評価基準	到達度確認筆記試験において、講義内容を十分に理解したと認められる答案にはA評価を、そのうち特に優れたものをS評価、講義内容を網羅的に理解したと認められる答案にはB評価を、講義内容を一通り理解したと認められる答案にはC評価を、講義内容の理解が劣るものについては、その程度に応じてDまたはE評価とします。試験の未受験などにより評価不能の場合には、F評価とします。					
その他	初回講義で説明するように、担当者によって講義の重点や進め方が異なることがあります。講義中の私語や携帯電話、スマートフォンの使用は禁止します。遅刻や欠席をするとその回の内容が抜け落ちてしまうなど自分自身にとって非常に不利となりますので、毎回しっかりと授業に参加してください。 ※G刈：法【必修】ホ【必修】情【必修】／E刈：法【必修】ホ【必修】経【必修】					